



オランダと「聖杯騎士伝説」：その独立と「欧州新教連合東インド会社」としてのVOC創設から欧州連合EUへ至る人文地理学的考察

川西, 孝男

(Citation)

人文地理学会2020年大会:64-65

(Issue Date)

2020

(Resource Type)

conference object

(Version)

Accepted Manuscript

(Rights)

ここに掲載した著作物の利用に関する注意:著作物の著作権は人文地理学会に帰属します。本著作物は著作権者である人文地理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては”著作権法”に従うことをお願いいたします。

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90007646>



オランダと「聖杯騎士伝説」 ——その独立と「欧州新教連合東インド会社」としての VOC 創設から 欧州連合 EU へ至る人文地理学的考察——

Kingdom of the Netherlands and Legend of Holy Grail's Knight From the independence and foundation of VOC as “East India Company of EU for Protestant” to European Union using Human-Geographic Approach

川西 孝男 (京都大学・人文科学研究所)

Dr. KAWANISHI Takao (Institute for Research in Humanities, Kyoto University)

キーワード: 「欧州新教連合東インド会社」, VOC, EU, オラニエ・ナッサウ家, 聖杯騎士伝説

Keywords: “East India Company of EU for Protestant”, Huis Oranje-Nassau, Legend of Holy Grail's Knight

1 はじめに

17世紀前半に独立を果たしたオランダそしてその象徴とされた“オランダ東インド会社”として知られる「連合東インド会社」(Verenigde Oostindische Compagnie, VOC: 1602 - 1799) は、国策としてのグローバルな交易活動がその研究の中心とされてきた。一方で、西、英、仏などの欧州の軍事大国に挟まれ、これらの10分の1に満たない領土のオランダそして当地を拠点にするVOCを、その独立そして会社創設から数世紀にわたり支え続けた“見えない”隣国について言及したものは少ない。

私はそれを、当時中央集権化を放棄して領邦独立国家の共存を目指し、オランダと同規模あるいはそれ以下の、世界地図上に見えないほどになった神聖ローマ帝国のドイツ領邦であったと見ている。そこにはドイツ宗教改革を支持し、「新たな信念」の下での海外進出を目指そうとするオランダ諸州への期待のみならず、それ以前の歴史文化的な繋がりがあった。これがヨーロッパにおける聖杯騎士伝説であり、一本の河川(ライン川)から海洋世界に結ばれ、その関係はVOCの終焉後も今日の欧州連合EUでの交易さらには多国家共存の理念を現実化する経済協力活動などの先駆として受け継がれたことを人文地理学のアプローチから例証し、VOCの実態が後のEUの精神にも通じる「欧州新教連合東インド会社」であったという新視点を提唱する。さらにVOCも大航海時代の先駆者となったポルトガルにおける「聖杯」そして「聖杯騎士」の理想郷を追い求め、各地で交易競争や軍事介入を続けながら「東インド最果ての地」である日本に訪れたことに及びたい。

2 ネーデルラントと聖杯騎士伝説

オランダの地は元来、現在のベルギー領などと共にネーデルラントと呼ばれ、神聖ローマ帝国領内の有力諸州(領邦)であった。このネーデルラントには十字軍遠征帰還者によってエルサレムからキリストの聖血がもたらされたブ

ルージュそして、13世紀初頭に帝国のヴォルフラム・フォン・エッセンバッハ Wolfram von Eschenbach の聖杯騎士物語「パルツィヴァール Parzival」に記された聖杯騎士ローエングリン Loherangrin の登場する欧州屈指の海上交易都市として栄えたアントウェルペンなどが所在する。

さらに、ネーデルラントから帝国領内及びスイスに至るライン川と共にオーストリア・ハンガリーなどに通じるマイン・ドナウなどの長距離河川が有史以来様々な交易・人的移動の役割を果たしていた。特にライン川は大型輸送船の往来が可能であり、ネーデルラントの港からの海外輸出品が河川を通じて、帝国の東部辺境に至る地にまでもたらされ、周辺都市は国際性を兼ね備えた領邦文化が栄えた。このライン川には上述の聖杯騎士伝説のほか、オランダ・ドイツ国境にゲルマンの英雄ジークフリートの生地クサンテン Xanten がある上、海外貿易での富を享受したかのような「ラインの黄金」伝説が流布されるなど、河川で繋がれた欧州中央部は文化的紐帯で結ばれていた。

3 オランダ独立期における VOC の創設

16世紀後半にネーデルラントはスペインの軍事侵攻を受け、上述のアントウェルペンが陥落(1585年)したため、当地の貿易・船舶業者の多くがアムステルダムに拠点を移し、独立運動を遂行する中でVOCを創設した。当時VOCへの莫大な資本調達、遠距離航海可能な造船技術や海路の確保、船員や兵士などの徴用そして何よりも独立で混乱する本土防衛を80年に及んだ独立戦争(1568-1648)の中、一国のみの力で成し得ないことは明らかである。このオランダの命運はライン沿岸の神聖ローマ帝国領邦の有力貴族であったオラニエ・ナッサウ侯ウィレム“沈黙侯”Willem, The Silent (prins van Oranje, graaf van Nassau -Dillenburg, 1533-84)によって開かれ、総督となって独立戦争を指揮し、河川周辺諸侯がこれを支援した。彼の登場は上述のアントウェルペンの救援に現れたローエングリン

をも想起させるほか、同じく聖杯騎士で後の聖杯王バルツィヴァールにおける「沈黙」の場面の重要性からも、ウィレム侯がこれらの伝説を深く知り得ていたことが伺える。

さらに、このウィレムの相続したフランスのオラニエの地もヴォルフラムの著作「ヴィレハルム Willehalm」において主人公の故郷として登場する。「バルツィヴァール」に続いて執筆され、13世紀初頭の十字軍における異教徒との交戦の中で互いの宗教を認め合う寛容がテーマとなっており、オラニエに伝わる自身の名に似た英雄を重ね合わせて独立戦争に挑んだことが十分に考えられる。これは当時、彼の生家ナッサウ・ディレンブルク家のゲオルク伯 Graf Georg von Nassau-Dillenburg 1562- 1623 が、ヴォルフラムの出身地とされるドイツ中央部フランケン地方のアンスバッハ Ansbach、そして聖杯騎士伝説に関係の深いパイロイト Bayreuth の両地を治める辺境伯の元へ出仕していたことに繋がる。これらウィレム侯へのヴォルフラムの影響はオランダ独立や VOC の海外進出そして「バルツィヴァール」や「ヴィレハルム」の主題でもあった「宗教的寛容」に通じる。また同侯は、新教そしてオランダ独立の橋頭保とすべくライデン大学を創設した。ウィレムと共に独立戦争を戦い、VOC 創設を主導したオルデンバルネフェルト Oldenbarnevelt, Johan van. 1547-1619 もライン川沿いの新教勢力の拠点ハイデルベルク大学などに学び、独立後のオランダを主導する人材の育成に努めた。

これらは VOC の意味する「連合」を冠した社名に顕著に現れている。この連合とは通常、オランダ海運会社の連合を意味するとされるが、上述の内外情勢をみると、VOC としてオランダの行く末は、欧州の新教支持国家による長期にわたる独立支援、あるいは隣国の神聖ローマ帝国領邦との「連合」戦略すなわち相互安全保障なくしてあり得なかったと言える。これは1648年のウェストファリア条約によって神聖ローマ帝国の領邦そしてスイスなどと共に、オランダが公式に独立を果たしたことで明かである。

4 「欧州新教連合東インド会社」としての VOC

このように VOC はライン川によって結ばれた神聖ローマ帝国領邦との連携の下、「欧州新教連合東インド会社」そして「初現にして完成形」と言われるグローバル企業の原型として、先駆者のポルトガルと各地で競争・交戦し、販路を獲得していった。ここにも「バルツィヴァール」に記された、聖杯城での祝宴に現れた「聖杯がもたらす」東インド産の香辛料で味付けされた食材や、黄金などの莫大な富が現実となった。そしてポルトガルと同じく、その最終目的地たる聖杯騎士伝説の地とみなされる要素を持つ黄金島「ジパング」に辿り着く。開府まもない家康も、新興国オランダに江戸周辺の未開湿地帯を開拓する自らの姿を重

ね、西洋の「新教徒」すなわち「新たな信念を持つオランダ人」たちに期待を寄せた。彼らも日本人に共通点や共感を見出し、VOC 末期までの約2世紀にわたり交易を続けた。VOC はこのジパングで莫大な金銀を得るなど、彼らの聖杯の探索は成功したと言い得る。さらに日本や中国における聖杯とも言うべき〈高級〉陶磁器に注目し、本国そしてライン川経由で上述のパイロイトなどの領邦宮廷にもたらし、アジアブームの先鞭をつけた。布教を控えて交易活動を重視した VOC は逆に、その人となり（人間性）や商品を通じて現地の人々の信頼を得るなど、今日のグローバル社会の共存の在り方をも示したのではなかろうか。

一方、ドナウへ、マイン～ラインといった逆ルートで中東の医療・科学などが欧州そして、蘭学として日本へもたらされたが、神聖ローマ領邦のドイツ人の貢献も大きく、これが維新後のドイツ帝国との外交、西洋医学・科学技術導入に繋がっていったことは周知のとおりである。

5 結語 VOC の終焉と今日の日蘭関係そして EU

現在のオランダそして既に解散して2世紀が経過する VOC をグローバルな歴史観（グローバル・ヒストリー）から捉えて結語としたい。VOC と同時期に誕生した江戸幕藩体制も VOC の終焉とともに幕末を迎え始めた。VOC としてオランダを支援した神聖ローマ帝国もフランス革命の余波を受け、VOC 解散後10年を経ずに千年王国の終焉を迎えている。オランダも斜陽期に入ったが、経済的繁栄の黄金期ではなく独立の苦難の時代を忘れることはなかった。今日においてもオラニエ・ナッサウ侯が国家元首を務め、オランダの将来そして日本との400年にわたる外交を見守っている。独立運動期に作られた世界最古とされる国歌の冒頭では、オランダのために立ち上がった、“聖杯騎士” ナッサウ侯ウィレムの名が今も歌い継がれている。

一方、VOC 時代の国内外に及ぶ多くの人的物的遺産を継承したオランダは、EU の先駆的存在の一として EU 圏最大の貿易港ロッテルダムを中心に圏内外への交易を主導している。これらは VOC 時代に築かれた「宗教的寛容と超国家的（国家連合的）交易」の成功が、2度の世界大戦を経て、なお今日の EU に受け継がれている証左でもある。この聖杯騎士伝説との縁の深いネーデルラントのブラッセルには EU 本部が置かれ、上述の VOC の精神とともに今も欧州そしてグローバル交易の舵取りを担っている。

以上

※本論は東京大学史料編纂所における特定共同研究「モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC 文書・EIC 文書の分野横断的研究」（モンスーン・プロジェクト、松方冬子班）の研究成果を取り入れている。

※本論では1648年の独立後をオランダとし、それ以前をネーデルラント（ベルギー領等を含む）と表記した。

（本論補足資料は WEB リポジトリ上で公開）

川西孝男：2020 年度 人文地理学会大会 令和 2 年 11 月 14～23 日 ＜研究発表補足資料＞

Additional documentation in
The Human Geographical
Society of Japan, 2020 annual
academic conference (14-23th,
Nov, 2020 on Zoom meeting),
by Takao KAWANISHI

※本資料は当研究発表に関する内容を、Ⅰ.項目ごとの図表、Ⅱ. 主要な現地史料研究協力機関、Ⅲ.主要海外現地研究・踏査地、Ⅳ.主要参考文献（一次史料、二次資料を含む）、Ⅴ.キーワード、Ⅵ. 分布図等、Ⅶ.音楽映像資料を明示し、補足・例証したものである。

I.各項目ごとの図表 Documents on each Chapter

1 はじめに

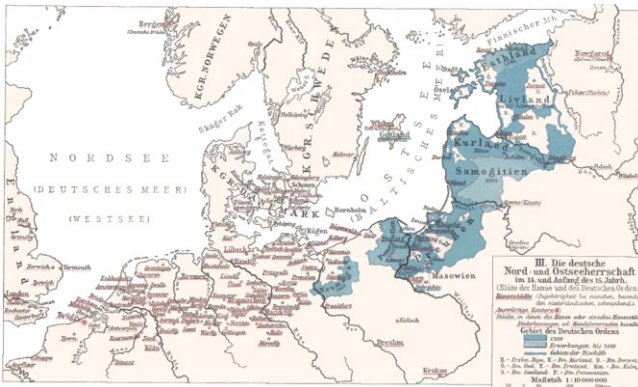


図1 14～15世紀初頭の北ヨーロッパ沿岸都市（濃色部はドイツ騎士団領）

典拠：<https://de.wikipedia.org/wiki/Hanse#/media/Datei:Hanse-Orden.png>

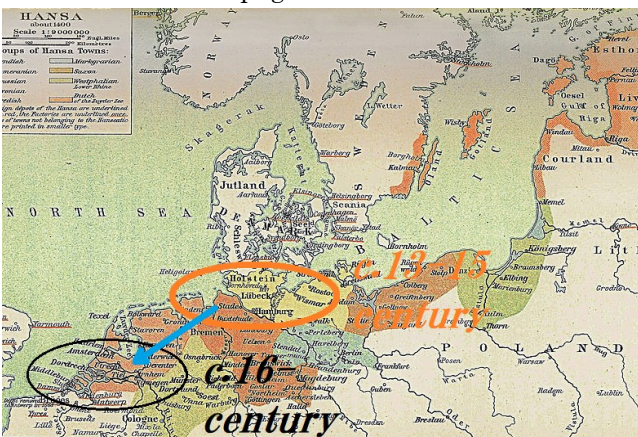


図2 ハンザ同盟における勢力の変遷（13世紀以降）

https://de.wikipedia.org/wiki/Hanse#/media/Datei:Extent_of_the_Hansa-optimiert.jpg（一部編集）



図3 ネーデルラントのハンザ都市と周辺（前図拡大）



図4 VOC 船団と社章 VOCs and the Logotype

<https://www.want.nl/de-redenen-waarom-de-voc-nog-steeds-het-meest-waardevolle-bedrijf-aller-tijden-is/>（一部編集）



図5 VOC 船旗（社章にオランダ国旗を重ね、年代により社章の大きさ、三色旗の色等が変化）

<https://vockamerantwerpen.be/logo-voc/>



図6 スペイン・バレンシア大聖堂内聖杯 (中央: 筆者撮影)
 Grail in Valencia Dom, Spain by Author, Takao Kawanishi



図7 バレンシア聖杯 (全体図) Valencia Grail
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:The_Holy_Grail_of_Valencia.png



図8 VOC旗と聖杯の構図の相似イメージ(筆者作成) Image of the Grail and VOC in my new point of view
 <本論仮説> : VOCは宗主国スペイン(当時ポルトガルを領有)の聖杯(バレンシア聖杯)の構図に似せて連合東インド会社の社章ロゴを作成し、Vは「連合」と聖杯(V: = 聖杯の形、あるいは Valencia grail)を現した。すなわち VOCは当初、キリスト(C: Christ)の聖杯(聖杯騎士)の探索を目的に東インド(O: Ostindia)の地を目指していた。

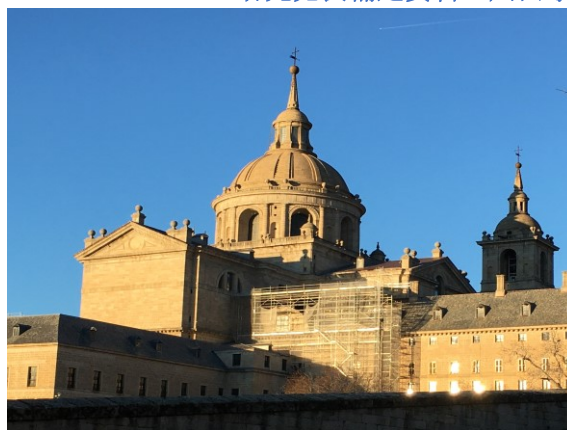


図9 スペイン・エルエスコリアル宮殿 (筆者撮影)
 Monasterio de El Escorial, Spain by Author



図10 スペイン・フィリペ2世 King Philip II, Spain
https://pt.wikipedia.org/wiki/Filipe_II_de_Espanha#/media/Ficheiro:King_PhilipII_of_Spain.jpg

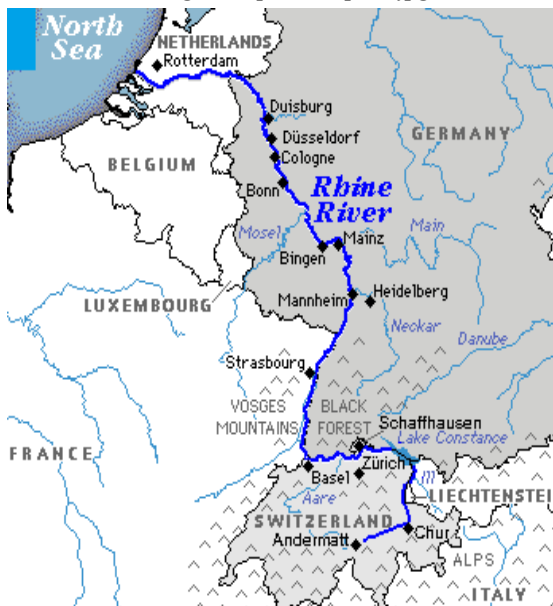


図11 ライン川周辺の主要都市
 Main cities around The Rhine river
<http://www.rollroots.com/rhine.htm>

2 ネーデルラントと聖杯騎士伝説



図12 西暦1000年頃の神聖ローマ帝国内のオランダ諸都市
 Dutch cities in the Holy Roman Empire around 1000 AD
https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/4/4d/HRR_10Jh.jpg



図14 Wolfram Eschenbach in Ansbach,1860 筆者撮影



図13 ブルゴニュ領ネーデルラント
 Bourgondische Nederlanden(1384-1482)
https://nl.wikipedia.org/wiki/Bourgondische_hertogen



図15 Wolfram, Parzival (prologo, Biblioteca universitaria de Heidelberg)



図16 Parsifal, R. Wagner in Bayreuther Festspielhaus 1882
<https://www.akg-images.de/archive/-2UMDHUOBQ95.html>



図 17 Lohengrin, by August von Heckel in 1886 at
 château de Neuschwanstein

3 オランダ独立期における VOC の創設



図 18 William I (Prince) Orange-Nassau-
 Dillenburg (1533 -1584) such as Grail Knight
 Loherangrin



図 19 William I (The Silent, Aged) such as Grail
 King Parzival
<https://www.thefamouspeople.com/profiles/william-the-silent-8665.php>



図 20 Willehalm-Kodex,1334, Frankfurt,
 Universität Kassel, <http://manuscript-miniatures.com/5709/20835/>



図 21 Willehalm, Vienna, Österreichische
 Nationalbibliothek

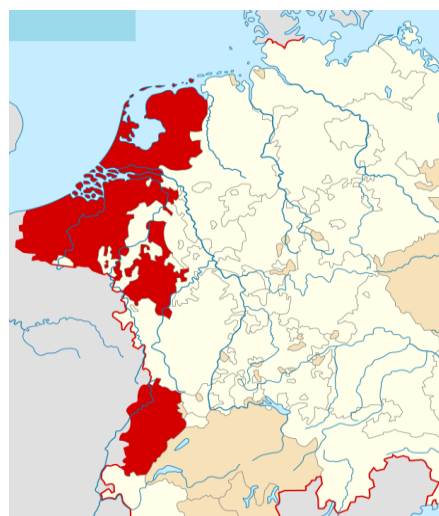


図 22 1555 年当時の神聖ローマ帝国ブルゴーニュ伯領
https://nl.wikipedia.org/wiki/Republiek_der_Zeven_Ver enigde_Nederlanden#/media/Bestand:Locator_Burgundian_Circle.svg



図 23 Oost-Indisch Huis (VOC headquarter in Amsterdam, by Author 筆者撮影)

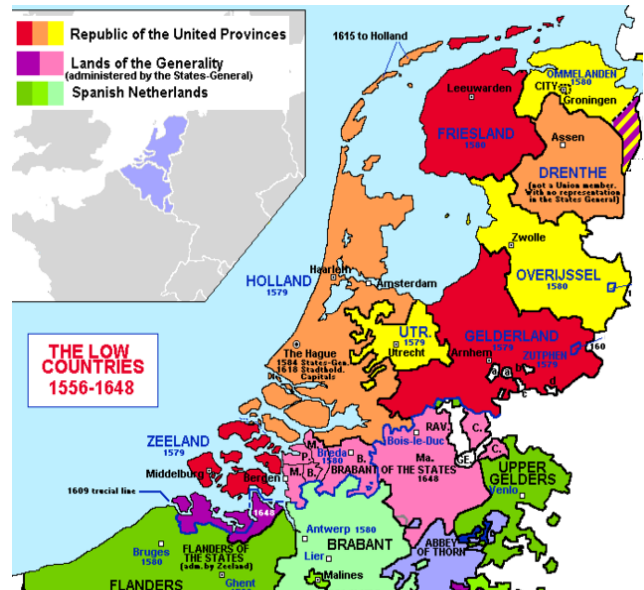


図 26 独立直前のネーデルラント諸州 (-1648) https://en.wikipedia.org/wiki/File:The_Low_Countries.png



図 24 Universiteit Leiden Bibliotheek (by Author 筆者撮影)



図 27 ウェストファリア条約 (1648) とオランダ、神聖ローマ領邦、スイスの独立 https://de.wikipedia.org/wiki/Westf%C3%A4lischer_Friede#/media/Datei:HRR_1648.png



図 25 Heidelberg Universität (by Author 筆者撮影)

4 「欧州新教連合東インド会社」としての VOC

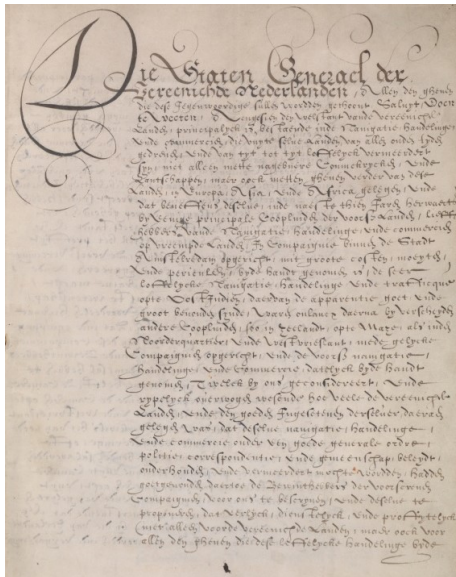


図 28 VOC 創設書 octrooi (1602)

<https://www.nationaalarchief.nl/beleven/onderwijs/bronnenbox/voc-octrooi-1602>



① https://de.wikipedia.org/wiki/Datei:Europa_Ludwigskanal_Rhein_Main_Donau.png



② https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/1/8/87/Constanta-Rotterdam_DE.PNG

図 29①② ドナウ～、マインからライン川への繋がり



図 30 バイロイト・ファイアンス焼 (1716 年以降)

<https://www.lempertz.com/en/catalogues/lot/1028-1/616-a-bayreuth-dark-red-faience-cup-and-saucer-with-etched-silver-heraldic-decor.html>



図 31 バイロイト、祝祭劇場(メイン川上流、筆者撮影)
Bayreuth Festspielhaus by Author

5 結語 VOC の終焉と今日の日蘭関係そして EU



図 32 Grote rivieren van Nederland (ネーデルランド大
河川群)

https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/1/1e/Map_of_the_annual_average_discharge_of_Rhine_and_Maas_2000-2011_%28EN%29.png を一部編集



図 33 オランダ国王夫妻来日 (2019 年 10 月)

The King and Mrs. Holland visited Japan

<https://note.com/kurehapao/n/nb9566eab538c>



図 34 ロッテルダム港 (Rotterdam, Image)

<https://weekendsinrotterdam.com/places-to-watch-the-sunset-in-rotterdam/>

II. 主要な現地史料研究協力機関 Main Research Institutions

東京大学史料編纂所及び東京大学総合図書館

Historiographical Institute & The General Library in the University of Tokyo

京都大学人文科学研究所、東南アジア研究所図書室

Institute for Research in Humanities & Center for

Southeast Asian Studies Library in Kyoto University

関西学院大学 Kwansai Gakuin University, Japan

オランダ・ライデン大学 Universiteit Leiden

オランダ・ハーグ国立公文書館 National Archives of the Netherlands, The Hague

ドイツ・ハイデルベルク大学 Universität Heidelberg

ドイツ・オーバーフランケン歴史協会 Historischer Verein für Oberfranken e.V., Germany

ドイツ・ノイシュヴァンシュタイン城 Schloss Neuschwanstein, Germany

スペイン・エルエスコリアル王宮図書館 Real Biblioteca de San Lorenzo de El Escorial, Spain

スペイン国立中央図書館 Biblioteca Nacional de España
ポルトガル、トルレ・ド・トンボ公文書館 Arquivo Nacional da Torre do Tombo, Portugal

ポルトガル・リスボン海事博物館 Museu de Marinha, Lisbon, Portugal

ポルトガル国立中央図書館 Biblioteca Nacional de Portugal

英国・大英図書館東アジア記録史料部門 British Library, India Office Records, London, UK

スイス・ザンクトガレン修道院図書館 Abbey library of Saint Gallen, Swiss

スイス・ゲーテアヌム、ルドルフ・シュタイナー文書館 Goetheanum u. Rudolf Steiner Archiv, Swiss

III. 主要海外現地研究・踏査地 Main Overseas

research city and site

オランダ (アムステルダム Amsterdam、ホールン Hoorn、ロッテルダム Rotterdam、デンハーグ The Hague、ライデン Leiden)

ベルギー (アントウェルペン Antwerpen、ブラッセル Brussel、ブリュージュ Bruges、ゲント Ghent)

ドイツ (クサンテン Xanten、ケルン Köln、フランクフルト・アム・マイン Frankfurt am Main、マインツ Mainz、ハイデルベルク Heidelberg、ヴォルムス Worms、バイロイト Bayreuth、バンベルク Bamberg、パッサウ Passau)

オーストリア (ウィーン Wien)

ハンガリー (ブタペスト Budapest)

スイス (ザンクトガレン St.Gallen、ドルナツハ Dornach)

IV. 主要参考文献・資料 Main reference

Friedrich Schiller, *Geschichte des Abfalls der Vereinigten Niederlande von der spanischen Regierung*, München, 1922

Wedgwood, C. V. *William the Silent: William of Nassau, Prince of Orange, 1533-1584*. Weidenfeld & Nicolson History, 2001

Hugo Grotius, *Mare Liberum, sive de jure quod Batavis competit ad Indicana commercia dissertatio*, 1609

<https://oll.libertyfund.org/titles/grotius-the-freedom-of-the-seas-latin-and-english-version-magoffin-trans>
Hugo Grotius, *De jure belli ac pacis libri tres. In quibus jus naturae & gentium: item juris publici praecipua explicantur*, 1625
translated English
<https://oll.libertyfund.org/titles/grotius-the-rights-of-war-and-peace-2005-ed-3-vols>
The Dutch East India Company: A Captivating Guide to the First True Multinational Corporation and Its Impact on the Dutch War of Independence from Spain, Captivating History, 2019
W. Greub, R.J. Kelder, *Willem van Oranje, Parzival en de Graal / druk 1: Wolfram von Eschenbach als historicus*, Uitgeverij, 2009
Werner Greub, *Wolfram von Eschenbach und die Wirklichkeit des Grals*, Verlag am Goetheanum, 1996
Joachim Bumke, *Wolfram von Eschenbach*, Stuttgart, 2004
Wolfram von Eschenbach, *Parzival I II*, Frankfurt am Main, 1994
Wolfram von Eschenbach, *Willehalm*, London, 1984
Nick Robins, *The Corporation That Changed the World - Second Edition: How the East India Company Shaped the Modern Multinational*, Pluto Press, 2012
Richard Barber, *The Holy Grail The history of a Legend*, London, 2004
Rainer Trübsbach, *Die Geschichte der Stadt Bayreuth*, Druckhaus Bayreuth, 1993
Verein der Freunde des Stadtmuseums Bayreuth e.V (Hrsg.), *Bayreuther Fayencen*, 1997
川西孝男「聖杯騎士伝説の研究」、関西学院大学出版会、2016
Kawanishi Takao, *Wesley in Oxford and the Legend of Holy Grail's Knight: The Study about the Root of Methodism to the World, and the Foundation of Kwansei-Gakuin in Japan*, Academic Journal of Interdisciplinary Studies, Vol 6, No 1 (2017), MCSER-Mediterranean Center of Social and Educational Research
Kawanishi Takao, *Study of the Legend of Holy Grail's Knight and Emperor Friedrich II by the European House of Andechs Meranien. From the Viewpoint Their Aim for Ending of International Religious War*

"the Crusades" in 12-13th Century, Mediterranean Journal of Social Sciences, Vol.4 No.10, 2011, MCSER Publishing, Rome-Italy
川西、「Avila Girón (-1619) による「Relación del Reino de Nippon a que llaman corruptamente Jappon」写本第2版を中心とした日本における「聖杯」の研究：「天文」、天正、慶長そして「令和」における遣欧者の視点、あるいは史料編纂学、グローバル歴史地理学、キリスト教神秘主義的考察」東京大学史料編纂所特定共同研究発表会配付資料(2020年9月12日)
https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=29095&item_no=1&page_id=30&block_id=85
川西、「ヨーロッパ大航海時代と『聖杯騎士伝説』：ポルトガル『エスタード・ダ・インディア』そして英蘭東インド会社の世界進出における人文地理学的考察」人文地理学会2019年大会 研究発表要旨, (2019年11月7日)
https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28349&item_no=1&page_id=30&block_id=85
川西、「ヨーロッパ聖杯騎士伝説をめぐる歴史地理学的考察：『ペルスヴァル』から『パルツイヴァール』, そして『パルジファル』へ」人文地理学会2011年大会発表(2011年11月13日)
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/156067>

V. キーワード (各項別、前項既出分は省略) Keywords each chapter

1.
ネーデルラント (オランダ) Kingdom of the Netherlands
スペイン Spain
バレンシア大聖堂所蔵聖杯 Grail in Valencia Dom(Santo Cáliz de la Catedral de Valencia)
聖杯騎士伝説 Legend of Holy Grail's Knight
連合東インド会社、オランダ東インド会社 Verenigde Oostindische Compagnie, VOC
東インド East India
神聖ローマ帝国ドイツ領邦 Deutsche Territorialstaat im Heiliges Römisches Reich
欧州連合 European Union, EU
ドイツ宗教改革 German Protestant Reformation
「新教 Protestant as Christian new religion(or Urchristentum)」
筆者による連合東インド会社 VOC の概念用語(以下①～⑤、時代を経て宗教を超えヨーロッパ大陸に拡大)

- ① 「欧州新教連合東インド会社 East India Company of European Union for Protestant」
- ② 「神聖ローマ帝国 (領邦) 連合東インド会社 East India Company of United Holy Roman Empire States」
- ③ 「欧州大陸新教連合東インド会社 East India Company of United European Continent's Protestants」
- ④ 「欧州大陸国家連合東インド会社 East India Company of United European Continent States」
- ⑤ 「欧州連合東インド会社 East India Company of European Union」

ライン川 Rhein River

スイス Switzerland

2.

アントウェルペン (アントワープ) Antwerpen

ブリュージュ (ブルッヘ) Brugge

聖血教会(ベルギー)Heilig Bloedbasiliek(Belgium)

十字軍 Crusader

エルサレム Jerusalem

ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハ Wolfram von Eschenbach

「パルツイヴァール」Parzival

「ローエン格林 (ロヘラン格林)」Lohengrin,

Loherangrin

R.ヴァーグナー (ワーグナー) Richard Wagner

「パルジファル」Parsifal

ゲント (ヘント、ガン) Ghent

フランドル Flanders

アムステルダム Amsterdam

ジークフリート Siegfried

「ラインの黄金」伝説 Legend of Rhein Gold

メイン川 Main River

ドナウ川 Donau River

オーストリア Austria

ハンガリー Hungary

3.

オランダ独立戦争 Tachtigjarige Oorlog, Eighty Years' War

スペイン王フィリペ 2 世 King Philip II, Spain

エルエスコリアル・サンロレンソ宮殿 Real Monasterio de San Lorenzo de El Escorial

オラニエ・ナッサウ侯ウレム“沈黙候” Graf William I

Orange-Nassau “The Silent”

パルツイヴァールと「沈黙」Parzival and “Silent”

オラニエ (フランス) Orange in France

ナッサウ (ドイツ) Nassau in Germany

ナッサウ・ディレンブルク家ゲオルク伯 Graf Georg von

Nassau-Dillenburg

「ヴィレハルム Willehalm」

アンスバッハ・バイロイト辺境伯 Markgraf

Ansbach-Bayreuth

アンスバッハ Ansbach

バイロイト Bayreuth

ライデン大学 Universiteit Leiden

「宗教的寛容 Religious tolerance」

ヤコブス・アルミニウス Jacobus Arminius (1560-1609)

ヨハン・オルデンバルネフェルト Oldenbarnevelt, Johan van

フーゴ・グロティウス Hugo Grotius (1583-1645)

ローレンス・リール Laurens Reael (1583-1637)

ハイデルベルク大学 Universität Heidelberg

「連合 Union, Unie, united-, vereind-」

ウェストファリア (ヴェストファーレン) 条約 Pax Westphalica

4.

ジパング Jipang

徳川家康 Ieyasu Tokugawa

江戸幕府 Edobakufu, Tokugawa Shogunate

オランダ人 Holländer, Dutchman

陶磁器 (中国、日本) china and porcelain

欧州におけるアジアブームの先駆 Pioneering the Asian boom in Europe

バイロイト・ファイアンス焼 Bayreuth Faïences

蘭学 Dutch studies

ドイツ帝国 German Empire

明治維新 Meiji Restoration

明治期におけるドイツとの外交 Diplomacy with Germany in the Meiji era

5.

グローバル・ヒストリー Global History

VOC の遺産 Heritage of VOC

オランダ (ネーデルラント王国) 国歌「ナッサウ侯ウレム」 the national anthem of the Netherlands "Wilhelmus van Nassouwe"

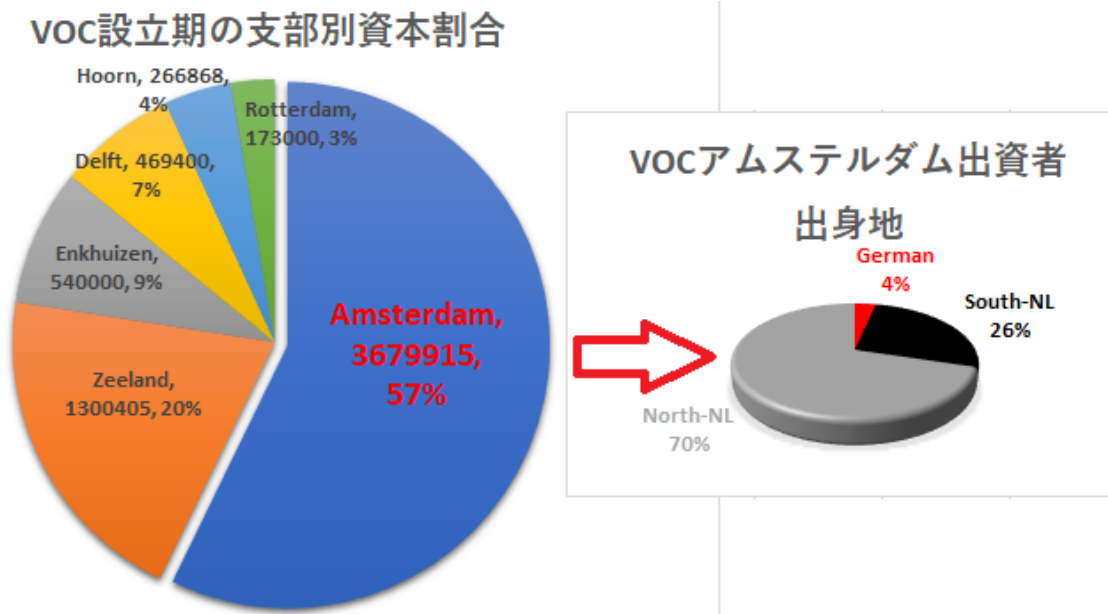
超国家的 (国家連合的) 交易 Supranational (confederation) trade

ロッテルダム Rotterdam

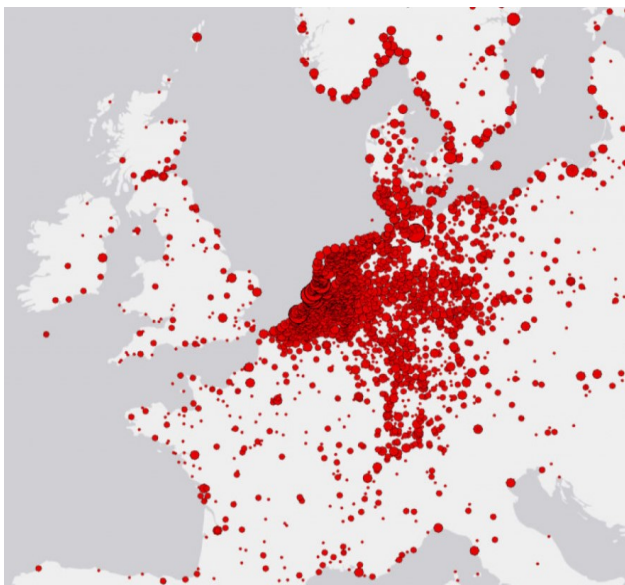
ブラッセル Brussel

ネーデルラント大河川群 Grote rivieren van Nederland

VI. 分布図等



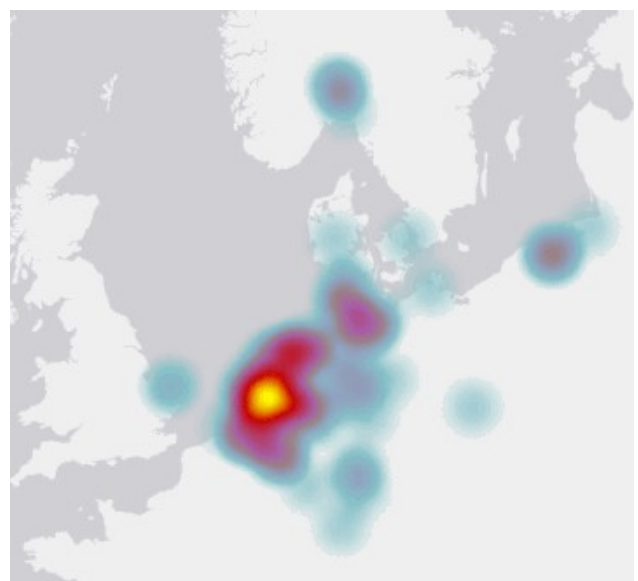
VOC 設立期の支部別出資割合 (通貨単位ギルダー) と VOC アムステルダム支部出資者の出身地別割合 Percentage of Investment by branch during VOC establishment (Currency: Guilder), and Investors by Origin to VOC Amsterdam
<https://www.voc-kenniscentrum.nl/kamer-amsterdam.html>などを参照し著者作成



ヨーロッパにおける VOC の人員調達 (解説: ネーデルラントを中心にライン川周辺、北ドイツ・北欧の新教国さらにはカトリック圏を含む欧州全域に及んでいる)

the European recruitment of the VOC

<https://www.maritimecareers.eu/2018/01/03/data-voc-maritime-personnel-records/>



VOC 初期の兵員調達 (解説: ネーデルラントを中心に新教国の港湾都市部の傭兵が中心、次第に内陸部に拡大)

Regions of origin of VOC soldiers, 1630

<https://www.maritimecareers.eu/2018/06/11/where-the-voc-crews-came-from/>

Historiographical Institute, the University of Tokyo titled
Interdisciplinary Research on the Records of the Portuguese Indian State, Jesuit letters and the VOC and EIC Archives (Monsoon Project, Matsukata Fuyuko Team), supported by them to dispatch overseas National Institutes of Europe (Italy including Vatican, France, Spain, Portugal) in 2020 (Reiwa First Year).

※無断転載を禁じます。



17～19世紀におけるVOC及びオランダを通じてのヨーロッパ(ヨーロッパ大陸あるいは神聖ローマ帝国、もしくは今日のヨーロッパ連合EU圏)と日本のグローバル交易イメージ(経由地等を省略、筆者作成)

Global Trading from Europe (European Continent, Holy Roman Empire, or the area of European Union :EU in now) to Japan in 17-19th Century by VOC and Kingdom of the Netherlands (by Author)

VII. 音楽映像資料

オランダ(ネーデルラント)国歌「ナッサウ候ウィレム」
National Anthem: Netherlands Wilhelmus van
Nassouwe

<https://www.youtube.com/watch?v=PipqC0VEFvs>

ヴァーグナー「ローエングリン」序曲 Richard Wagner:
Lohengrin, Prelude

<https://www.youtube.com/watch?v=zyodILZEQFg>

※本発表は東京大学史料編纂所における、文部科学省所管特定共同研究「モンスーン文書・イエズス会日本書翰・VOC文書・EIC文書の分野横断的研究」(通称:モンスーン・プロジェクト、松方冬子班)の海外研究支援(研究渡航国:イタリア、フランス、スペイン、ポルトガル、研究年度:令和元年度)を受けており、その研究成果を用いたものである。
Note: This Presentation by Dr. KAWANISHI Takao which is the one of works of the Specific Joint Research by Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in